

骨髓バンク 2008年9月 会報40号

会報発行：骨髓バンクを支援するいばらきの会 <http://ibaraki.marrows.jp.net/>

発行責任者：牛島英二 編集：小田倉孝夫・福間究

<事務局> 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-1-1-913福間宅

TEL : 029-856-7881 / FAX : 020-4668-5485 / E-mail : bmt-ibaraki-owner@egroups.co.jp

今年の夏は猛暑が続いたかと思えば天候不順の為に嵐のような大雨が降ったり雷が轟いたり大荒れで日本列島各地で被害が出ているようです。人間も体調を崩しやすい時期でもありますので皆様ご自愛ください。

さて、本年度も9月の登録会で無事、平成20年度の上期が終了しました。県内各地で骨髓バンクドナー登録会とチャリティー募金活動が行われ、その結果、**合計312名**と非常にたくさんの方に登録を頂きました。登録会・募金活動に参加された皆さん、本当にお疲れさまでした。登録会に参加されました皆様のご協力に感謝申し上げます。下期も上期以上の登録者を目指してがんばって参りましょう！

平成20年度上期登録会&イベント終了！

開催日			イベント名・登録会場名	登録者数	募金額
月	日	曜日			
4	5	土	日立さくらまつり献血併行登録会	18名	-
	14	月	日立化成工業下館事業所献血併行登録会	9名	-
5	11	日	つくばフェスティバル(つくば献血ルーム)登録会	27名	-
	23	金	日立ハイテクコントロールシステムズ 献血併行登録会	27名	-
	28	水	筑波大学献血併行登録会	22名	-
	30	金	ウイズ銚田店献血併行登録会	3名	-
6	4	水	配電盤茨城団地協同組合献血併行登録会	1名	-
	11	水	ベイシア玉造店献血併行登録会	11名	-
	16	月	日立建機土浦工場献血併行登録会	12名	-
	21	土	いばらきの会総会(国民宿舎つくばね)	-	-
	25	水	日立建機土浦工場献血併行登録会	15名	-
7	1	火	ジョイフル本田荒川沖店献血併行登録会	12名	-
	26	土	つつみ幼稚園夏祭りペンシルバルーン募金	-	募金金額17,594 園からの寄付 30,000
	30	水	神栖市保健センター献血併行登録会	13名	-
8	4	月	大子町役場献血併行登録会	24名	-
	24	日	まつりつくば(つくば献血ルーム)登録会	26名	-
	25	月	日立製作所オートモティブシステムグループ 献血併行登録会	35名	-
9	5	金	茨城県建設業協会水戸支部献血併行登録会	36名	-
	19	金	八千代町役場献血併行登録会	21名	-

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

さて今年度のドナー登録会も上半期が終了して、年間33回の計画中17回終了時点で合計312名の登録、平均18.4名、登録率28.4%と好調な成績を記録しております。下半期では骨髓バンク推進月間となる10月に合計10回もの登録会が予定されておりますので、会員の皆さんにはぜひともお近くの登録会にはご都合をつけていただき、ご参加いただけますようよろしくお願いいたします。
(会長 牛島英二)

7月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

7月1日 ジョイフル本田荒川沖店献血併行登録会

ドナー登録者数 12名(受付14名)
献 血 者 数 53名(受付82名)
参 加 者 土浦保健所 藤村様、井坂様
いばらきの会 福間さん、長尾さん、鈴木由美子さん、和田さん
財団地区普及広報委員 山崎揚久(小田倉代理)

屋外駐車場でテントを張っての登録会で雨が心配されましたが、梅雨時期にもかかわらず、朝から好天に恵まれ多少暑かったですが気持ちのよい登録会でした。献血に来場される方も平均的に訪れ、ドナー登録も混み合うことなく行いました。買い物に来場される方への登録会でしたが、店員の方も献血やドナー登録されて、店内での放送などの効果があったようです。また来年も機会がありましたら実施してもよい場所だと思います。(山崎揚久)

7月26日 つつみ幼稚園夏祭りペンシルバルーン募金

17時からの開始に合わせ、教室で事前にバルーンを作り準備を整え、いざ出陣。天候的にも日射しはあまりなく、結構過ごしやすい気温でしたが、園児や保護者の熱気に圧倒され、あっという間に汗だくになりました。今日は、特に募金額を100円としないで、ご随意にということで開始しましたが、皆さん入れてくださる額はほとんど100円です。ほとんど2時間半立ち詰めの状態でしたが、心地よい時間が過ぎていきました。園児の嬉しそうな笑顔に、逆にパワーをもらった一日でした。参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。
募金合計額：17,594円
園からの寄付：30,000円

参加者 川井さん、和田さん、取手支部の貫井さん、望月さん、染谷さん、前原さん、岩波さん 伊井

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

7月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

7月30日 神栖市保健センター献血併行登録会

ドナー登録者数 13名(受付13名)
献血者数 49名(受付68名)
参加者 潮来保健所 安澤様、児玉様
登録推進員 飛田さん(水戸献血ルーム)
財団地区普及広報委員 牛島英二

連日猛暑が続いている中、当日は最高気温が30度を下回りやや過しやすかったのですが、強い日差しのせいもあり献血に来られる方の数はあまり伸びませんでした。

それでも昨年度の同じ会場での実績7名を大きく上回るドナー登録者を得ることができました。いつも通り献血申込者全員に県パンフレットを手渡して、ドナー登録をお勧めしたのですが数名の方が登録済みとお答えになり、とてもうれしく感じました。

当日の会場である保健センターでは、一般市民に開放されている会議室・研修室で大正琴のグループ練習や、老人会の昼食会などが開催されており、時折民謡などが聞こえてきて、一風変わったBGMとなりました。

また当日の問診担当ドクターはドナー登録会初体験とのことで、受付開始前に不適合条件について私が説明しましたが、その若い男性医師はとても誠実な方で、献血の問診も丁寧に対応されているのが好感を持ってました。(牛島英二)

8月4日 大子町役場献血併行登録会

ドナー登録者数 24名(受付25名)
献血者数 52名(受付62名)
参加者 常陸大宮保健所 山田様
登録推進員 飛田さん(水戸献血ルーム)
いばらきの会 伊井陽子さん
財団地区普及広報委員 伊井義人

今日の県北地方の天気予報は、雷雨の予報で心配しておりました。

ところが午前中はほとんどその兆しはなく、大変暑い1日を予感させるものでした。

10時の開始と同時に、献血者申込者にほぼ匹敵する数の方々にドナー登録に回っていただくことができました。いつもどおり、献血問診票を書いている方に声をかけると、「やりましょう」「いいですよ」と言って下さる方がほとんどで、あれよあれよという間に午前中だけで10名の方に登録いただきました。場所が役場ということもあり、献血に来られる方は役場職員の方が多く、事前のPR効果が現れたとも言えるでしょう。

午後に入っても声掛けをあまり断わられることなく、コンスタントにドナー登録へ回っていただきました。結果として25名の方に説明を行い、24名に登録をいただきました。

残念ながら1名は血圧が高く、要件具備に至りませんでした。献血担当の大子町保健センター職員の斎藤さんが自らドナー登録を行って下さいました。感謝感謝です。

ですが、なんといっても本日のこの高登録率の功労者は、本日のドクターだと思います。

ご自身もドナー登録をされており、大変バンクに協力的です。問診も懇切丁寧に物腰も柔らかく、献血が終わって帰る方一人ひとりに「ありがとうございました」と言っておられました。

本当にすばらしいドクターでした。問診票記入中に声をかける時もドクターに聞こえる位置でも

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

7月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

あり、ある意味緊張して声掛けをしましたが、ドクターは優しく見守って下さいました。本当にすごく安心感がありましたし、登録不適格事項で我々では判断できないことがあっても、受付をする前にドクターへお連れし、事前問診もいやな顔一つせず、にこやかに対応して下さいました。

ドクターは今年4月から血液センターのドクターに就任されたそうです。最後の報告とお礼の時、52名中24名という数字に「やった。よかったですね～」と小さく両手でガッツポーズをされたのがとても印象的でした。

午後、一時カミナリと少しの雨が降りましたが、いろんな意味で本当に暑い1日でした。参加された皆様、本当にお疲れ様でした。（伊井義人）

8月24日 まつりつくば（つくば献血ルーム）献血併行登録会

ドナー登録者数 26名（受付26名）
献 血 者 数 82名（受付95名）
参 加 者 つくば保健所 片岡様
いばらきの会 牛島さん、伊井さん、小田倉さん、鈴木さん、和田さん
財団地区普及広報委員 福間究

8月のつくば献血ルームの前は、毎年暑さに耐えながらの登録会になりますが、今年は曇り空で、たまに登録会に影響しない程度の小雨はありましたが、しのぎ易い一日でした。

献血ルームでの登録会は、献血に来られた方にいかにドナー登録をしていただくかが最大のポイントです。

私達が献血ルームの中をウロウロすると献血ルームの迷惑になりますので、つくば献血ルームでの献血の常連でドナー勧誘のうまい伊井さんだけが献血ルームの中に入り、ほかの者は外で献血の呼びかけとバンク広報のためのパンフレット・チラシ・ティッシュ配布を行いました。予想通り、登録者の9割以上の方が献血に来られた方でした。

献血ルームの皆様にはいろいろとお世話になり有難うございました。（福間究）

8月25日 日立製作所オートモティブシステムグループ献血併行登録会

ドナー登録者数 35名（受付35名）
献 血 者 数 85名（受付103名）
参 加 者 ひたちなか保健所 佐藤様
登録推進員 飛田さん（水戸献血ルーム）
いばらきの会 林さん、伊井陽子さん
財団地区普及広報委員 伊井義人

ここ、日立製作所オートモティブシステムグループでの登録会は、3年振りの実施となりました。1日中どんよりとして、たまに小雨が降ってくるあまりすっきりしない天気でしたが、登録会の方は快晴でした。バス2台、問診の先生もお二人、献血受付も4人という、私も見たことのない献血体制でのスタートでしたが、月曜の朝ということもあったのか、10時過ぎころまでほとんど献血に来られる方がいませんでした。

その後、ポツポツと献血申込の方が増え、そして、バンクの受付にも順調に回っていただきました。午前中は10名の登録。午後になって献血申込の方も多くなり、もちろんバンクの受付・説明もすこぶる好調で、結果として35名の方が登録して下さいました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

7月～9月 茨城県内イベント登録会等報告

今日は林さんの勤務先での登録会ということもあり、上司の許可をいただいた林さんが説明員として参加され、声掛けや説明に抜群の力を発揮されました。

特に声掛けについては、お知り合いも多く、何人もの方が林さんの勧誘で登録されました。本当に心強い説明員さんでした。

本日参加された皆様、本当にお疲れ様でした。（伊井義人）

9月5日 茨城県建設業協会水戸支部献血併行登録会

ドナー登録者数 36名（受付41名）
献 血 者 数 111名（受付139名）
参 加 者 水戸保健所 湯浅様
登録推進員 飛田さん（水戸献血ルーム）
いばらきの会 牛島さん、伊井さん、山崎晃子さん
地区普及広報委員 山崎揚久

茨城県建設業協会水戸支部加盟の工務店社員を対象にした献血併行登録会でした。

献血開始から登録される方もいて、午前中だけでも20名の登録者があり協会の方々の意識の高さを感じられ協会の方々も来場者への登録を進める声掛けもあり献血者の約3割の登録者がいたことは本当にうれしいことです。

それと伊井さんのささやき作戦も、ドナー登録に迷いがあった方々への後押しになりました。献血受付の血液センター職員による骨髄バンクドナー登録はいかがですか？の声掛けも結果につながりました。声掛けは登録数を増やす強力な手法です！

今回は色々な面で皆様のご協力により好結果になり大変ありがとうございました。

また来年も同場所での実施が出来ればと思います。（山崎揚久）

9月19日 八千代町役場献血併行登録会

ドナー登録者数 21名（受付22名）
献 血 者 数 88名（受付105名）
参 加 者 常総保健所 鈴木様
いばらきの会 福間明子さん
財団地区普及広報委員 福間究

今までの登録会場より変更され、自然に配慮され明るく広いロビーの役場での登録会でした。場所柄、役場職員の方の登録が多く、午前中で7人に登録していただきました。

同じ職場ですので一人が登録すると、それなら私もと連鎖反应的に登録していただきました。また、献血が八千代ライオンズクラブの主催でしたので、ライオンズクラブの方の声かけでも登録していただきました。（福間究）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

医療フォーラム参加報告

9月2日(土)に埼玉で行われた医療フォーラム(主催 キリンファーマー)に参加してきました。二部構成で第一部では大谷さんの講演がありました。発病から自分を取り巻く家族とのやり取り、誰もが平等に骨髄移植が出来るようになって欲しいなどの話があり、後半は移植に伴う不妊への医学的対応に及ぶまでの話でした。

第二部は、自治医科大学附属さいたま医療センター血液内科の神田教授の講演がありました。昨年までは東大病院で講師をしており今年から埼玉に来られたようです。

神田教授の講演が非常に面白く、時間が経つのが早く思えるような内容でした。

特にパワーポイントをフルに活用しての講演で、ジョークも交えながらの話でしたが主な講演の内容は東大時代から取り組んでいる移植治療に伴う不妊治療に関する話でした。

神田教授は過去にある20歳の女性患者から発せられた言葉がきっかけとなり研究に力を入れているそうです。

その女性の患者さんは「子供が産めないのであれば、移植はしない」と言っていたそうで、どのようにその患者さんを説得しようか考えたそうです。

そのようなこともあり、現在、神田教授は放射線治療の際に卵巣への影響を軽減するため、卵巣部分を鉛で遮蔽して行う治療に取り組んでいるのだそうです。

現在多くの患者さんの協力の下で新しい治療法の臨床試験を繰り返しているようです。

ただこの治療は卵巣に対しての放射線量を低減させることになる為、卵巣内にがん細胞が残ってしまう危険も回避できないようです。

まだまだ研究の余地が残されていますが、今後、血液学会にもこれらの問題点を提言していきたいと大谷さんと神田教授が話していました。

血液難病に対する治療法は目覚ましい発展を遂げながらも多くの課題が残されているのだと改めて感じられました。

講演会の中でドクターが話していた中で、近年の血液内科のドクターが不足しているとの話がありました。

小児科のドクターが不足していることはよく報じられていますが深刻な問題でもあるので良い方向に進んでほしいものです。

ドクター曰く、血液内科のドクターほどやりがいのある仕事はないそうです。患者の診断から移植も含めた治療まで一貫して行える科目は血液内科くらいなものだそうです。

(小田倉孝夫)

10月～12月の主な登録会の予定

10月11日	銚田商工祭(銚田総合公園)	(担当地区普及広報委員	山崎)
10月14日	三菱化学鹿島事業所	(担当地区普及広報委員	牛島)
10月14日	利根町役場	(担当地区普及広報委員	伊井)
10月15日	協和総合センター	(担当地区普及広報委員	細谷)
10月17日	ベイシア高萩モール店	(担当地区普及広報委員	牛島)
10月19日	みなと産業祭(那珂湊港)	(担当地区普及広報委員	伊井)
10月25日	神栖市消費生活展(神栖市民体育館)	(担当地区普及広報委員	牛島)
10月26日	建設フェスタ(常陸那珂港)	(担当地区普及広報委員	伊井)
10月27日	京三電気	(担当地区普及広報委員	小田倉)
10月29日	筑波大学	(担当地区普及広報委員	福間)
11月14日	かわねやフェスタ店	(担当地区普及広報委員	伊井)
11月17日	前川製作所	(担当地区普及広報委員	伊井)
12月18日	下妻市役所	(担当地区普及広報委員	福間)

登録会の予定は変更になる事も有りますので、登録会参加ご希望の方は、事前に、事務局若しくは各担当地区普及広報委員にお問い合わせ下さい。

皆様の御協力を宜しくお願い申し上げます。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

会長の独り言



1. 会報発刊40号を迎えて

当会会報も今号で40号を迎えることになりました。

当会は今年で創立10年目を迎えておりますが、会報は当会前身時代の旧広める会の頃からスタートし、第5号から当会会報として正式にスタートしました。HPにはバックナンバーが全て掲載されておりますので、会員の方で入会以前の会報をご覧になったことのない方はお時間のあるときにお目通しいただければ幸いです。

一応、目標年間発行回数は4回ですが、過去の実績はは2～6回で、不定期発行となっております。関東近県のボランティア団体の会報発行状況は、毎月～隔月～不定期～発行せず、と様々ですが、現在の編集担当である小田倉変酋長の孤軍奮闘により何とか目標回数をクリアしているのが実情です。

私自身は、小田倉変酋長の発案による「会長の独り言」を毎号掲載させてもらっていますが、最初の頃は苦痛であったものが最近ではネタ帳を作り、次号では何を書こうかと考えることが一つの楽しみになってきました。

2. 「良かった探し」

いつ頃の年代であったかは忘れてしまったが、テレビで見た子供向けアニメ番組(タイトルも忘れた)の中で、主人公の薄幸の少女がその貧しい境遇にもめげず、その日一日の出来事の中で自分にとって何が良かったことかを探す遊びをしている様を描いた場面のことを今でも良く覚えている。

その遊びの名は「良かった探し」。例えば、野原できれいな花が咲いているのを見つけて良かった、蝶々が楽しそうに空を飛んでいるのを見て良かった、などいわゆるプラス思考である。

歌謡曲で「幸せを数えたら片手でも余る、不幸せを数えたら両手でも足りない」という歌詞の曲があるが、何事も否定的に考え、不安や取り越し苦労をして自分で自分を追い込むマイナス思考は、それが習慣的になった場合に老化を促進し、様々な成人病を誘発しかねないと言われている。誰もがご存知の昔からの格言に「病は気から」というのががあるが、これは比喩的表現などではなく、現代の最先端の科学が実際に証明しているとのことだ。

長い間いろいろな仕事をやってくれば、良いこともあれば悪いこともある。うまく行く時もあればひどい失敗をすることもある。クヨクヨ悩んだり不安に思ったりしては良いことは一つもない。しかしこんな理屈は分かっているでもこれがなかなか難しく、私のような凡人は日常の些細なことにも一喜一憂し、なかなかプラス思考になれず自分で自分を追い詰めてしまうことが良くある。

「良かった探し」をしようと心掛けていてもつい日常の仕事に忙殺され、ついついマイナス思考になりがちだ。

そんな時にプラス思考とまでは行かなくても頭の中を空っぽにできるものが趣味の釣りだ。私の釣り人生については次回以降で紹介することにしよう。乞うご期待!(牛島英二)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく!

9月21日 骨髄バンク全国大会参加報告

21日に名古屋で行われました全国大会に伊井さんと参加しましたので当日の様子をご報告します。骨髄バンクの移植例数がもうすぐ1万人になることから「1万人のありがとう」というサブタイトルが付けられました。

第1部では関係者挨拶、医療報告、地元団体推薦の団体への感謝状の贈呈

第2部では大会イベントとして、

- ・名古屋コミュニケーションアート専門学校（NCA）のゴスペルアンサンブルによる3曲の熱唱。
- ・大谷さんと地元の水谷さん司会によるトークショー
- ・抽選会

でした。

民間骨髄バンク発祥の地での開催と言う事もあり当時の「東海骨髄バンク」関係者も多くいたようです。

民間バンク初の骨髄提供者の岐阜の田中さんと元患者さんの橋本さん、陰の初提供者である埼玉の笠原さんの紹介から始まり、ドナーの方や移植を受けた患者さんのお話、会場にいらした中堀さんのお母さんの紹介など盛りだくさんの内容でした。また、前日は臍帯血バンクの大会もあったこともありバンクのポスターにもなった「いちご農家」の加藤さんご家族も来ていました。ポスターでは小さかったあいかちゃんも大きくなっていました。

そんな中で、地元で献血やバンクのボランティア活動をしている中学生や、高校生の生徒さんが紹介されていました。

一校は亡くなった中堀さんの母校でした。生徒さんの話を聞いていてボランティア意識の強い生徒さん達だなーと印象深く残りました。

名古屋地区はバンク関連の話題が多いこともあるのですが、バンクの活動は患者救済ばかりでなくこのような子供達の心の成長にも役立っているのかもしれない。

我が茨城県でも我々の活動が青少年教育に役に立ってってもらえるようがんばりたいものです。（小田倉孝夫）

骨髄移植推進財団では平成20年度より「骨髄バンク草の根語りべ派遣事業」を始めました。これは、中学生や、高校生などの若年齢層のみなさんに骨髄バンクの事を理解してもらおうという目的で始めました。これにより将来のドナー登録候補者になっていく皆さんにPRをしていこうという目的です。

会員の皆さんの母校やご子息の通う学校などにお話などをされてみてはいかがでしょうか？

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

編集後記

先日、あるテレビ番組を見る機会があった。番組名などは忘れたが、有名な格言などの特集をしていた情報番組だったように思う。その番組の中で印象に残った言葉があった。

「何が不可能なのかを言うことは難しい。

昨日の夢は今日の希望であり、明日の現実であるのだから」

と言う言葉であった。後で調べたところ、この言葉は、アメリカのロケット開発の父であり、世界で初めて液体燃料ロケットを実験飛行させたR・H・ゴダード博士の言葉である。

時に1926年。アポロが月面着陸する43年前の事。

ロケットを宇宙に向けて発射させると言う夢を持ちながら、周りからの色々な批判にあいながらも、自分の夢を実現させた博士の何事もあきらめないと言う思いを込めた言葉なのだと思う。

そこでこの言葉は聞いた人それぞれに解釈ができるのではないかと考えてみた。

この言葉を自分が参加する「骨髄バンク活動」に照らし合わせて解釈してみるとどうなるだろう？

例えば、人の一生は、よく、幼少期・少年期・青年期・中年期・壮年期と大きく分けた表現を用いられることがある。

仮にこの人の一生を骨髄バンク事業に置き換えて見ると、骨髄バンクは「一人でも多くの患者さんの救命を」と訴えた“幼少期”に始まり、骨髄バンク事業がスタートした“少年期”を過ぎ登録30万人を達成した“青年期”を迎えたと言えるのではないだろうか？

今でもさまざまな諸問題を抱えてはいるものの「誰もが等しく骨髄移植を受けられる世の中に」と移行しつつあり、今からどんどん活発な活動が求められる時期とも言える。

何事においてもそうだが、“理想”に燃えれば燃えるほど現実的にぶつかるものも大きい。

多くの骨髄バンクボランティアも当然、多くの“理想と現実”と言う数々の壁にぶつかってきた。

しかし、その反面そんな苦勞をしながらでも、多くのバンクを取り巻く仲間たちは、その時その時で理想と現実のギャップを跳ね除けてきた。そして今の姿がある。

そのパワーの源はやはり、初期の思いである「一人でも多くの患者さんの救命の為に」なのであろう。そして、色々な障害を乗り越えた時の達成感がまた新たなパワーともなってきたのではないか？

そのパワーがある限り、骨髄バンク事業は多くの“理想と現実”のギャップを乗り越え、そしてこれからも乗り越えていけるだろう。

まだまだ大きな課題の残る骨髄バンク事業ではあるが、これからも大いなる“理想”を追い求める必要がある。なぜならば理想を持たなければただ単純に現実のみを受け入れることしか出来なくなってしまうからだ。

そう言う意味では骨髄バンク事業が「誰もが等しく骨髄移植を受けられる世の中に」という時期を迎えるまでにはまだまだ多くの努力と時間が掛かるのかもしれない。

その為にも改めて、関係するもの皆が初心を忘れてならないことは言うまでもないことである。

特に厚生労働省、推進財団、行政機関には強いリーダーシップを期待せずにはいられない。

この活動をしていると、骨髄バンク事業に関わってきた人達が過去に味わった辛い経験や思いを聞く機会がある。

しかし我々は、いつまでもそのような過去にとらわれることなく、この活動を支えてくれた多く先達に感謝の心を持って、現実に向かって前に進むことが必要ではないだろうか？

先の言葉ではないが、昨日見た夢を今日の希望に変え明日の現実につなげるためにも・・・

その先には必ず、きっと多くの患者の皆さんの明るい笑顔が待っているはずである。

先日の名古屋での全国大会に参加し改めてそう強く思った。(編集担当 小田倉孝夫)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義：00110-3-127575

加入者名義：骨髄バンクを支援するいばらきの会

事務局からのお知らせ

心のもったご寄付をありがとうございました。(2008.7.21~9.30)

つつみ幼稚園様 30,000円

細谷栄二様 6,000円

ドナー登録は18歳から54歳までの健康な方ならどなたでも登録ができます。1人でも多くの皆様の御協力をお願いいたします。また、骨髄移植推進財団ホームページからも事前のお申し込みが可能となりました。ドナー登録についての詳しい説明もございますので是非ご覧ください。<http://www.jmdp.or.jp/index.html>

日本骨髄バンク骨髄提供希望者(ドナー)登録者数:315,232人(県内6,394人)

骨髄移植希望者(患者数):2,586人(海外1,227 県内31人)

バンクを通じての移植例数:9,597例(海外175 県内移植数177例、県内採取数192例)
(2008年07月末現在)

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！